

整形外科の研修目標と実施計画

研 修 目 標 内 容	自己 評価	指導医 評価
I. 救急医療		
一般目標：運動器救急疾患・外傷に対応できる基本的診療能力を修得する。		
行動目標：		
1. 多発外傷における重要臓器損傷とその症状を述べることができる。		
2. 骨折に伴う全身的・局所的症状を述べるができる。		
3. 神経・血管・筋腱損傷の症状を述べるができる。		
4. 脊髄損傷の症状を述べるができる。		
5. 多発外傷の重症度を判断できる。		
6. 多発外傷において優先検査順位を判断できる。		
7. 開放骨折を診断でき、その重症度を判断できる。		
8. 神経・血管・筋腱損傷を診断できる。		
9. 神経学的観察によって麻痺の高位を判断できる。		
10. 骨・関節感染症の急性期の症状を述べるができる。		
II. 慢性疾患		
一般目標：適正な診断を行うために必要な運動器慢性疾患の重要性と特殊性について理解・修得する。		
行動目標：		
1. 変性疾患を列挙してその自然経過、病態を理解する。		
2. 関節リウマチ、変形性関節症、脊椎変性疾患、骨粗鬆症、腫瘍のX線、MRI、造影像の解釈ができる。		
3. 上記疾患の検査、鑑別診断、初期治療方針を立てることができる。		
4. 腰痛、関節痛、歩行障害、四肢のしびれの症状、病態を理解できる。		
5. 神経ブロック、硬膜外ブロックを指導医のもとで行うことができる。		
6. 関節造影、脊髄造影を指導医のもとで行うことができる。		
7. 理学療法の処方が理解できる。		
8. 後療法の重要性を理解し適切な処方できる。		
9. 一本枕、コルセット処方が適切にできる。		
10. 病歴聴取に際して患者の社会的背景やQOLについて配慮できる。		
11. リハビリテーション・在宅医療・社会復帰などの諸問題を他の専門家、コメディカル、医療社会事業士と検討できる。		
III. 基本手技		
一般目標：運動器疾患の正確な診断と安全な治療を行うためにその基本手技を修得する。		
行動目標：		
1. 主な身体計測（ROM、MMT、四肢長、四肢周囲径）ができる。		

研 修 目 標 内 容	自己 評価	指導医 評価
2. 疾患に適切なX線写真の撮影部位と方向を指示できる。(身体部位の正式な名称が言える。		
3. 骨・関節の身体所見がとれ、評価できる。		
4. 神経学的所見がとれ、評価できる。		
5. 一般的な外傷の診断、応急処置ができる。		
①成人の四肢の骨折、脱臼		
②小児の外傷、骨折		
③靭帯損傷		
④神経・血管・筋腱損傷		
⑤脊椎・脊髄外傷の治療上の基本的知識の修得		
⑥開放骨折の治療原則の理解		
6. 免荷療法、理学療法の指示ができる。		
7. 清潔操作を理解し、創処置、関節穿刺・注入、小手術、直達牽引ができる。		
8. 手術の必要性、概要、侵襲性について患者に説明し、うまくコミュニケーションをとることができる。		
IV. 医療記録		
一般目標：運動器疾患に対して理解を深め、必要事項を医療記録に正確に記載できる能力を修得する。		
行動目標：		
1. 運動器疾患について正確に病歴が記載できる。 主訴、現病歴、家族歴、職業歴、スポーツ歴、外傷歴、アレルギー、内服歴、治療歴		
2. 運動器疾患の身体所見を記載できる。 脚長、筋萎縮、変形、ROM、MMT、反射、感覚、歩容、ADL		
3. 検査結果の記載ができる。 画像、血液生化学、尿、関節液、病理組織		
4. 症状、経過の記載ができる。		
5. 検査、治療行為に対するインフォームド・コンセントの内容が記載できる。		
6. 紹介状、依頼状を適切に書くことができる。		
7. リハビリテーション、義肢、装具の処方、記載ができる。		
8. 診断書の種類と内容が理解できる。		

脳神経外科 の研修目標と実施計画

研 修 目 標	内 容	自己 評価	指導医 評価
	病棟（ICUを含む）並びに救急外来勤務を行い、専門医の指導のもと、以下の事項について研修する。主に脳卒中患者の初期診断を指導医とともに従事し、脳卒中急性期の診断要点を習得する。		
	1. 神経救急患者の診察（脳卒中と頭部外傷）		
	1) 全身の観察（バイタルサインと精神状態の把握）ができる。		
	2) 頭頸部の診察（瞳孔の観察、障害部位の視診、頭頸部の聴診）ができる。		
	3) 神経学的診察が出来、記載できる。		
	2. 脳卒中急性期および頭部外傷急性期の診断		
	1) 頭部CT検査が読影できる。		
	2) 頭部脳血管撮影が読影できる。		
	3) 頭部MRI検査が読影できる。		
	4) 頭部核医学SPECT検査を理解する。		
	5) 神経生理学的検査（脳波、ABR、SSER）を理解する。		
	6) 動脈血ガス分析の結果と意識障害との関係を理解できる。		
	7) 髄液検査ができる。		
	3. 脳卒中急性期および頭部外傷急性期の治療		
	1) 意識障害患者の気道確保が実施できる。		
	2) 採血法（静脈血、動脈血）を実施できる。		
	3) 意識障害患者の気管内挿管を実施できる。		
	4) 意識障害患者の導尿法を実施できる。		
	5) 意識障害患者への胃管の挿入と管理ができる。		
	6) 頭皮外傷へ局所麻酔法を実践できる。		
	7) 頭部の創部消毒とガーゼ交換を実施できる。		
	8) 頭皮の皮膚縫合法と実施できる。		
	9) 意識障害患者の療養（安静度、体位、食事、入浴、排泄）管理ができる。		
	10) 抗痙攣剤、脳血降下剤等の薬物の作用、副作用、相互作用について理解できる。		
	11) 脳圧上昇患者の輸液管理が適切にできる。		
	12) 診療録をPOSに従って記載し、管理できる。		
	13) 処方箋、指示箋を作成し、管理できる。		
	14) 紹介状と紹介状への返信を作成でき、それを管理できる。		
	4. 以下の代表的症状の鑑別診断ができる		
	1) 以下の脳幹障害症状の鑑別診断ができる。		
	①めまいの鑑別診断ができる。		
	②聴覚障害の鑑別診断ができる。		

研 修 目 標 内 容	自 己 評 価	指 導 医 評 価
③嘔気・嘔吐の鑑別診断ができる。		
④嚥下障害の鑑別診断ができる。		
⑤嘔気・嘔吐の鑑別診断ができる。		
2) 意識障害の鑑別診断ができる。		
3) 頭痛の鑑別診断ができる。		
4) 視力障害、視野狭窄の鑑別診断ができる。		
5. 脳神経外科的手術法		
1) 手術に参加し、脳外科的手術内容を理解する。		
2) 術後管理を行い、患者管理の要点を理解する。		
3) 痙攣、頭蓋内圧亢進の管理を理解する。		
6. 脳死		
1) 脳死の概念を理解する。		
2) 脳死状態に至る神経学的過程を理解する。		
3) 脳死臓器移植の手続きについて理解する。		
7. 脳卒中患者（脳梗塞、脳内出血）を受け持ち、以下の項目の症例レポートを提出する		
1) 診断		
2) 検査結果		
3) 治療方針		
4) 治療結果		

形成外科 の研修目標と実施計画

研 修 目 標	内 容	自己 評価	指導医 評価
1. 診断			
一般目標 (GIO) :			
	形成外科において頻度の高い疾患について、問診および理学所見を通じて必要な検査を選択し、基本的治療を決定できる。		
行動目標 (SBO) :			
1)	問診や理学所見より、形成外科的問題点を明らかにすることができる。		
2)	熱傷について、問診や視診により大まかな深達度を診断し、初期治療と機能・整容的予後を判断できる。		
3)	顔面や四肢の外傷に対し、基本的な初期治療を判断できる。		
4)	顔面骨折について問診や理学的所見よりX線・CT・MRIなどの必要な検査を選択し診断かつ基本的な初期治療を判断できる。		
5)	頻度の高い先天異常の問診や視診により診断し、基本的な治療をのべ、先天異常に対するインフォームド・コンセントの要点を説明できる。		
6)	代表的皮膚・軟部腫瘍の診断と治療法を判断できる。		
7)	外傷や手術による変形や組織欠損の診断を行い治療法を判断できる。		
	留意すべき注意事項として、形成外科の患者さんは体表に現れている変形の程度以上に精神的苦悩が大きい場合が多いため、言動に十分な配慮を払うことが大切である。		
2. 治療			
一般目標 (GIO) :			
	清潔・不潔を理解した消毒処置ができ、形成外科における基本的な処置と小手術ができる。		
行動目標 (SBO) :			
1)	形成外科的な切開や縫合の方法と要点を学習する。		
2)	顔面及び四肢外傷に対する形成外科的な初期治療ができる。		
3)	皮膚移植のための全層皮膚の採皮、デルマトームを用いた分層皮膚の採皮ができる。		
4)	皮膚・軟骨・骨などの組織移植の適応、手技を理解する。		
5)	簡単な皮膚・軟部腫瘍の摘出術ができる。		
6)	レーザー治療の手技を経験できる。		
7)	マイクロサージャリーを用いた組織移植術の適応、手技を学習し、術後管理を経験できる。		
8)	顔面骨折の治療や顔面骨切り術の適応、手技を学習する。		
9)	形成外科的再建法と機能・整容的予後の関係を理解する。		

皮膚科の研修目標と実施計画

研 修 目 標	内 容	自己 評価	指導医 評価
1. 皮膚疾患の診察と診察方法を習得			
①病歴聴取	主訴、現病歴、既往歴、家族歴など診療に必要な情報を正確に聴取できること。		
②皮膚科関連用語の理解	皮疹の特徴を正確に分類できること。		
2. 皮膚疾患の検査方法を習得			
①一般的検査	皮膚描記法、パッチテスト、真菌検査、細菌検査、皮膚生検などの皮膚科検査の全般的事項、適応の理解。		
②皮膚病理学の基礎。			
③皮疹との関連が疑われる疾患の精査。			
3. 皮膚疾患の治療方法を習得			
①基本的処置（切開、縫合を含む）救急患者の対応。			
②掻痒、疼痛に対する全身療法の種類と適応。			
③外用剤の使用法、局所副作用の知識。			
④光線療法の適応と実施。			
⑤抗生剤の使用法、副作用。			
⑥ステロイドの全身投与の適応、禁忌、使用方法、副作用。			
⑦熱傷処置と管理。			
4. 皮膚外科治療を習得			
①皮膚腫瘍の手術			

泌尿器科 の研修目標と実施計画

研 修 目 標	内 容	自己 評価	指導医 評価
1. 診断と検査			
GIO：泌尿器科疾患ならびに腎臓内科疾患に対し適切な問診の上、理学的所見をとり、必要な検査を選び出し遂行することができる。			
SBO：			
(1) 主訴、現病歴に応じて適切な問診ができ、問診の結果から疾患群の想定を行ない、鑑別に要する検査法の体系化ができる。			
(2) 次の検査を指示、自ら実施し、所見を判定することができる。			
A：泌尿生殖器の理学的検査（腎触診、前立腺触診、膀胱双手診、陰嚢内容触診、神経学的検査など）水・電解質異常に関連した理学的検査			
B：血液、血液生化学、血液ガス分析			
C：X線検査（KUB、IVP、DIP、RP、CG、UVG、CTなど）			
D：超音波検査			
E：ウロダイナミックス（尿流量検査、膀胱内圧測定など）			
F：核医学検査（腎シンチグラフィ、レノグラム、骨シンチなど）			
G：腎機能検査（クレアチニン・クリアランスなど）			
H：MRI			
I：経皮的腎生検			
2. 治療			
GIO：泌尿器科領域ならびに腎臓内科領域の基本治療に関する意義・原理を理解し、適応を決め、手術手技を習得し、治療前後の管理ができる。			
SBO：			
(1) 次の各疾患について十分な知識を持ち、必要に応じて適切な治療方針をたて遂行する。			
A：非特異性感染症（急性膀胱炎、急性腎盂腎炎、急性前立腺炎、急性精巣上体炎など）			
B：性行為感染症			
C：尿路機能障害（神経因性膀胱など）			
D：陰嚢疾患（陰嚢水腫、精索捻転症など）			
E：尿路結石症			
F：腫瘍			
腎腫瘍			
腎盂・尿管腫瘍			
膀胱腫瘍			
前立腺腫瘍			
副腎腫瘍			

研 修 目 標 内 容	自 己 評 価	指 導 医 評 価
陰茎腫瘍		
G:腎不全（急性腎不全、慢性腎不全）、透析		
H:糸球体腎炎、糖尿病性腎症		
(2) 泌尿器科手術の術前術後管理ができる。		
(3) 次の手術を理解し、指導者の下でその手術ができる。		
A:陰囊内容手術		
B:経皮的腎瘻造設術		
C:対外衝撃波碎石術（ESWL）		
D:包皮環状切除術		
(4) 次の基本的処置や治療法を理解し遂行する。		
A:脱水や電解質異常に対する輸液		
B:慢性腎疾患に対する薬物療法・栄養指導		
C:腎不全時の投薬ならびに輸液		
D:溢水に対する利尿薬・ECUM・透析療法		
E:緊急血液透析用のblood access		
E:血液透析患者の管理		
F:CAPD患者の管理		
G:多臓器不全に対する血液浄化法（CHDF、血漿交換療法、エンドトキシン吸着療法など）		

産婦人科 の研修目標と実施計画

研 修 目 標	内 容	自己 評価	指導医 評価
(産 科)			
1.	妊娠の検査・診断		
2.	正常妊婦の外来管理		
3.	正常分娩の管理		
4.	正常産褥の管理		
5.	正常新生児の管理		
6.	腹式帝王切開術の経験		
7.	流・早産の管理		
8.	産科出血にたいする応急処置の理解		
9.	産科的急性腹症の管理		
(婦 人 科)			
10.	婦人科良性腫瘍の診断と治療計画の立案		
11.	婦人科良性腫瘍の手術への助手としての参加		
12.	婦人科性器感染症の検査・診断・治療計画の立案		
13.	婦人科悪性腫瘍の早期診断法の理解		
14.	婦人科悪性腫瘍の手術への参加経験		
15.	婦人科悪性腫瘍の集中的治療の理解		
16.	婦人科急性腹症の患者の管理		
17.	不妊症・内分泌疾患患者の外来における検査と治療計画の立案		

眼科の研修目標と実施計画

研 修 目 標 内 容	自己 評価	指導医 評価
1. 眼科的検査の習得		
①視力検査		
②眼位、眼球運動についての諸検査		
③色覚測定、視野測定、隅角検査、緑内障負荷検査など		
④細隙燈顕微鏡検査		
⑤眼底検査		
2. 眼科疾患の診断		
①眼科各疾患の理解		
②他科疾患との関連		
3. 眼科的治療技術の習得		
①基礎的治療手技（点眼、洗眼、結膜下注射など）		
②伝染性疾患の予防と治療		
③眼外傷の救急処置		
④弱視訓練手技		
⑤急性眼疾患の救急処置		
⑥眼手術の基本的な手技（消毒、麻酔、術前、術後の患者管理）		
⑦眼手術手技の習得（助手として十分経験、習熟した後に順次術者となりうる）		
・外眼部手術（麦粒腫切開、内反症手術、斜視手術など）		
・内眼部手術（白内障手術、緑内障手術、網膜剥離手術など）		
・レーザー治療（虹彩凝固、網膜光凝固など）		
4. カンファレンス、抄読会への参加		
5. 症例報告、臨床統計報告		

耳鼻咽喉科の研修目標と実施計画

研 修 目 標	内 容	自己 評価	指導医 評価
外来 a	耳鼻咽喉科全般の疾患の診断と治療		
外来 b	外来救急処置（鼻出血止血等）および外来小手術（鼻茸切除、唾石摘出等）		
入院 a	術前・術後の管理		
入院 b	入院患者・家族への接しかた		
入院 c	悪性腫瘍の治療、ターミナルケアの研修		
手術 a	手術の見学実習および小手術の実施		
手術 b	扁桃摘出術・副鼻腔炎手術・気管切開術・喉頭微細手術などの手術助手		
検査 a	聴覚機能検査および平衡機能検査の実施		
検査 b	唾液腺造影・上顎洞造影・その他外来における諸検査の実施		